

氏名 大 西 信 行

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学位授与番号 乙 第 714 号

学位授与の日付 昭和50年12月31日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者
(学位規則第5条第2項該当)

学位論文題目 癌と細胞性免疫
Ⅰ. Methylcholanthrene 誘発腫瘍の同系移植マウスの部位別
リンパ組織の抗腫瘍性
Ⅱ. Methylcholanthrene 誘発肉腫の同系移植マウスの局所リ
ンパ節リンパ球の allogeneic inhibition 活性

論文審査委員 教授 小川勝士 教授 砂田輝武 教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第Ⅰ編では腫瘍増殖と部位別リンパ組織リンパ球の抗腫瘍性の推移を明らかにするため Methylcholanthrene (MCA) 誘発肉腫を C 3 H マウスの背部皮下に同系移植した。週を追って各リンパ組織をとり出し、MCA 腫瘍細胞にたいする殺細胞性を検討した。移植後最も早く局所腋窩リンパ節に抗腫瘍性が出現し、増強後4週目に消失、遠位腸間膜リンパ節では次第に活性が増強し、4週目で最強となる。脾では3週目に高い活性がみられる。いわゆる concomitant immunity は腫瘍の周辺のリンパ節から次第に遠隔に広がるものと考えられる。第Ⅱ編では、これらリンパ球の抗腫瘍性の背後にある免疫制御機構としての allogeneic inhibition 活性を、Ehrlich 癌株化 J T C - 1 1 細胞を標的細胞として測定した。MCA 誘発腫瘍移植 1, 2 週目の局所腋窩リンパ節の活性は健常マウスのそれと変わらないが、進行癌となった移植 3, 4 週目の活性は低下してくる。腫瘍の増殖は免疫制御機構の破綻と密接な関連があるといえよう。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はメチルコラントレン誘発肉腫を皮下に移植したマウスに於けるリンパ球の殺細胞性を部位別リンパ組織について検討し、経時的に免疫活性が局所リンパ節から遠隔に広がることを証明し、またエールリッヒ癌細胞を用いて上記担癌動物のリンパ球の allogeneic inhibition 活性を測定し、腫瘍の増大と共にその活性が低下することを明らかにしたもので、腫瘍免疫に於ける基礎的知見を立証したものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。